

■ハング競技委員会議事録

◆日時

2014年10月13日(月)13:00-17:00

◆場所

足尾ショップ

◆参加者

板垣(委員長)、北野、鈴木、牟田園、野尻

◆議事録

牟田園

◆議題

1.前回の持ち帰り事項

板垣

- ・大会結果報告書のフォーマットを更新する
⇒構想はできたので実行に移す

北野

- ・競技規定に記載の名称(デパーチャーオープンなど)を世界基準の表現に統一する
⇒継続課題
- ・デジタル無線機への移行についてのルール変更の文書を作成しJHFレポートに載せてもらう
⇒完了

牟田園

- ・過去のシリーズ登録状況を4月中に整理して、今後の対応の検討資料にする
⇒データが古くなったので実施を見送る
- ・ポイント大会の 카테고리2申請を推奨する旨を文書化し、主催者側にも告知する
⇒継続課題
- ・大会主催者に対して、大会申請に必要なものをHPに明示し、告知する
⇒継続課題
- ・シリーズ登録費の徴収方法を変更することに関して、JHF事務局にお金の流れを問い合わせる
大会主催者にもルール変更を周知する。
⇒完了
- ・鈴木が作成したインドネシア視察報告書を確認して競技委員会に掲載する
⇒完了

鈴木

- ・Nominal Goalを30%に変更したときの影響を確認する
⇒個人的な興味のため課題から割愛する

内田(野尻)

2.議題・報告

2.1.競技規定の改定

2.1.1.ESS到達後にゴールWPTをクリアできなかった場合のペナルティ

FSの標準パラメータを規定として明記する

減点有り、減点率20%

2.1.2.GPSの推奨

競技委員会からのTOPICSとして選手に告知する

- ・WPTを100個以上DLできること
- ・ルート設定で同じWPTを2回以上使えること
- ・シリンダー半径をWPTごとに変更できること

2.1.3.デジタル無線への完全移行

2015年度から大会への参加条件として、デジタル無線の所持が義務付けられる
大幅なルール変更のためシリーズ登録選手に改めてメールで告知する

2.1.4.GAPパラメータ

参加人数減少の傾向をみて、パラメータによりDQを下げるケースを改善したい
過去に1.0hを切った競技の結果について、パラメータを変更して考察する(鈴木)
NominalTimeは50minに変更することを第一案にする

2.2.シリーズ規則の改定

2.2.1.シリーズポイントの参加人数係数

近年の参加選手数に即していないため、ほとんどの大会でポイントが減点されている
閾値を45人に変更する

世界選手権選抜の参加人数係数も同様とする

数式は牟田園が考えて競技委員会の稟議にかける

2.2.2.世界選手権選抜ランキングの計上本数

大会数が減ってきているので計上本数を減らしたい

大会成立数に応じて計上本数を変更する

計上本数 = (成立本数/2)の切り上げ

海外獲得ポイント計上数は計上本数に応じて変動する

海外獲得ポイント計上数 = 計上本数 - 1

2.2.3.世界選手権の選考期間

課題

準備期間が短く、選手もサポートも十分な準備ができていない

前提

国内ポイントと世界戦選抜ポイントの選考期間は統一する

案

A: 選考期間を1年前倒す

B: 選考期間を〇ヶ月前倒す

C: 現状のまま

議論(変更した場合)

メリット

- ・宿や飛行機の取得など事前準備が可能
- ・選抜選手で事前にチームフライトの練習が可能
- ・サポート(ハングエイド、スポンサー)の運営が長期スパンで可能
- ・選手が休暇を取得しやすい
- ・選抜が決定した選手が明確な動機をもってプレ世界戦に出場可能

デメリット

- ・伸び盛りの選手を選抜することが不可能

結論

案Aで決定

女子世界戦は2018年世界選手権から対象

2016年世界選手権(2014+2015)

2018年世界選手権(2015+2016)

Class1世界戦は2019年世界選手権から対象

2017年世界選手権(2015+2016)

2019年世界選手権(2016+2017)

ワイルドカードは残す

ワイルドカードは最優先される

世界選の前々年度でランキングはいったん締め切るが、

プレ世界選が終わって、ワイルドカード・選手枠がFIXされた時点で代表選手が決定する

2.3.ライブトラッキング

- JHFから予算を獲得するために足尾の大会でテスト運用して実績を作る
- ⇒ローカル大会で実績を作って競技委員会にフィードバックしていく

2.4.メキシコ世界選手権

- 10月20日までに板垣が選手に出場意志を確認する
- チームリーダに対してもJHFから任命状が出るように板垣がJHFに依頼する

2.5.スポーツクラスの開催

- 今後の競技人口拡大に向けて、競技委員会として開催の方向で前向きに検討する
- Civil総会の意向も汲んで方向性を検討する

2.6.競技委員会運営

- 申請書類をチェックした際は、異議がない場合でも、その旨を競技委員会内で表明すること！

2.7.アジア選手権

- 来年の大会に日本選手が参加しやすいように、日程調整の連携を密にとる
- 鈴木は活動内容を定期的に競技委員会にフィードバックする

2.8.クラス5規則

2.8.1.世界選手権選抜規則

- 板垣がルールを見直す

2.8.2.全般

- ルールを見直してクラス1に準拠させる

2.9.ハング流行語大賞を新設する

- 選手から候補を公募してシリーズ最終戦の閉会式で表彰する！

2.10.次年度以降の日本選手権

- 競技委員が継続して誘致活動を行う

3.持ち帰り事項

板垣

- ・大会結果報告書のフォーマットを更新する
- ・メキシコ世界選手権の候補選手に参加の意志を確認する(10月20日締め切り)
- ・クラス5の規則を見直す

北野

- ・競技規定に記載の名称(デパーチャーオープンなど)を世界基準の表現に統一する

牟田園

- ・ポイント大会のカテゴリー2申請を推奨する旨を文書化し、主催者側にも告知する
- ・大会主催者に対して、大会申請に必要なものをHPに明示し、告知する
- ・ルールの変更点、デジタル無線の移行、GPSの推奨についてシリーズ登録選手にメールで広報する
- ・次年度の規則案を作成して競技委員会の稟議にかける

鈴木

- ・過去に最速ゴールタイムが1.0hを切った競技の結果について、パラメータを変更して考察する

野尻